

【山梨】「副会長としての責務は重い」と実感している。会員の事業継続の支援や、後継者育成に向けた助成金事業の充実を図っていきたい。青年部会と女



性部会の活動を生かすことが、協会や業界の近代化推進につながるはず」と話すのは、5月に山梨県トラック協会副会長に就任した早川孝雄氏（66、早川運輸社

後継育成むけ助成充実

山梨ト協副会長

早川 孝雄さん

長、笛吹市。

東八支部で副支部長を2期4年務め、支部長就任5年目になる。新体制となった本部の正副会長6人のうち、青年部会長経験者は3人いるが、この中の一人。50歳だった16年前に部会長となり、1期2年務めた経緯がある。

「副会長就任に伴い、本来であれば支部長は後進に譲る計画だったが、諸般の事情で引き受ける人がいないため、当面は兼務することとなった。今や、青年部

活動は息子（礼史専務）が担っており、時間の流れの早さを痛感する」

家業を自身でトラック運送事業に転換し、来年で40



年になる。地道な経営を続けながら、安定した企業体質を構築してきた。近く、本社敷地内に倉庫を建設

会員の事業継続を支援

し、周辺に点在する借り倉庫を集約する計画だ。

「WebKITや広域運送事業協同組合（樋口恵一理事長）などに加入し、可能な範囲で情報収集に取り組んでいる。こうしたネットワークに息子が参加することで、活動の場を広げることができている」

「ゴルフ歴は長いが「付き合い程度」で、趣味は旅行。トラック運送事業の創業者として苦労が絶えなかった当時は振り返り、「最近の若者は楽をすることばかり考えている」と苦言を呈する。

（谷本博）